

服装によって生起する多面的感情状態の測定 (第6報) 測定尺度の信頼性の検討

姫路短大 ○土井千鶴子 鳴門教育大 藤原康晴
奈良女大生活環境 中川 早苗 大阪経済大 家本 修

目的 これまで服装によって生起する多面的感情状態の構造を明らかにするため、まず感情用語の収集、クラスター分析による検討を行った。次に肯定的感情用語51語、否定的感情用語44語を選定し、4つの着装場面について生起する感情状態を測定し、因子分析、クラスター分析により、測定尺度の下位次元を明らかにした。

今回は尺度項目を再検討し、7つの下位次元からなる測定尺度を用いて着装場面ごとに感情を測定し、生起する感情状態の違いを、服装の種類と場面、服装イメージと場面との関係から検討し、あわせて本報で用いた測定尺度の信頼性を検討した。

方法 感情状態の測定には7つの下位次元(快活・爽快、優越、充実、安らぎ、抑鬱・動揺、羞恥、圧迫・緊張)からなる測定尺度(各下位次元につき5項目ずつ合計35項目)を用いた。次に調査対象者に4つの着装場面(通学、卒業記念パーティ、ディズニーランドへの旅行、会社訪問)において、それぞれ「派手～地味」「フォーマル～カジュアル」の次元で選定された10種類の服装写真を提示し、単極4段階尺度により、服装によって生起する感情状態を評定させた。調査対象者は943名の女子学生で、1994年11月に実施した。本報では測定尺度の信頼性、尺度間の相関などについて検討した。

結果 クロンバックの α 係数は、各尺度とも0.8以上の高い値を示し、本尺度は服装によって生起する多面的感情状態の測定尺度として有効であることがわかった。各次元間の相関では、肯定的と否定的感情の間には、圧迫・緊張と優越、充実感を除き負の相関が認められたが、否定的感情の次元間にはやや高い相関のものも認められた。